

# Active アクティブ！

～探検～

検～

探～

Active

子どもたちが自ら進んで活動できるようにしたい！

子どもたちが生き生きと活動できるようにしたい！

子どもたちの新たな気付きをたくさん引き出したい！



そのためには…？



大切なポイントがこの中に  
たくさん詰まっている！！

# Active アクティブ！



ここに注目!!

## Active

子どもたちの主体的で、対話的な活動を生み出すための具体的な工夫を記しています。

### 気付き！

気付きの質を高めるための手立てや、子どもの活動を価値付ける具体的な教師の関わり方を記しています。

### あるある NG!

指導の中で、子どもたちの意欲が持続しなかったり、活動が停滞してしまったりすることはないでしょうか。失敗しがちな教師の関わりを記しています。

# はじめに

生活科を指導する教師の皆さん、『Active（アクティブ）！』をお読みいただき、ありがとうございます。

右の子どもの言葉をお読みください。

どこが素敵な表現ですか？

そして、どんな言葉をかけますか？

探検に行った子どもは、目を輝かせたくさんの発見をします。いつも通っている店や施設、町の風景や通学路が違って見え始めたことが伝わります。

生活科の学習を通して、子どもは心も豊かに変容していくのです。

感性豊かで、様々なことに前向きな子どもの心を育てるには生活科がおすすめです。

まちたんけんに行きました。

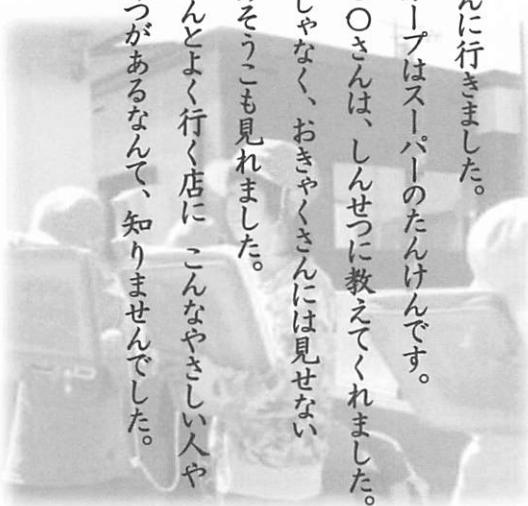
わたしのグループはスーパーのたんけんです。

店長の〇〇さんは、しんせうに教えてくれました。

それだけじゃなく、おきやくさんには見せない

店のそこも見れました。

お母さんとよく行く店にこんなやさしい人や  
ひみつがあるなんて、知りませんでした。



生活科は「人・もの・こと」という身近にある対象に子どもが関わる中で、自ら感じたり、気付いたりしていくことを大切にした教科です。関わりを通して、子どもには「自分の思い・願い」が生まれます。

教師はその実現に向けて、一人一人に適切に関わることが大切です。子どもの活動のよさや気付きを価値付けたり、教室全体に広げたりしていくことで、楽しく、意欲的に学び続けることができます。

この『アクティブ！』から「単元の進め方」「教師の関わりとして大切なこと」「大切にしたい気付きや学びのいろいろ」を感じていただけすると幸いです。



## 「人・もの・こと」って何？

人……学校の教職員、他の学級や学年の子ども、地域の人、ゲストティーチャーなど。

「人」と関わることで気付きが広がったり、深まったりします。

もの……校舎、公園や図書館などの公共物、地域の店やその中にある道具、アサガオや野菜、虫などの生き物（栽培、動物など飼育）、樹木や草花、雪などの自然物、遊びを通して見付けたものや制作したものなど。

「もの」との関わりから、驚きや不思議さ、疑問や工夫が生まれます。

こと……探検、地域行事、遊びの工夫、校内の交流活動、幼稚園や保育園との交流、○○ランドや○○まつりのような広場や活動そのもの、お手伝い。

「こと」を対象とした場合、「人」との関わりやつながりが生まれるようにすると学びが深まります。



## 適切な教師の関わりは？

具体例はページをめくると載っています。子どもが「人・もの・こと」に関わり活動した時に生まれた思いや願いを大切にします。

- ①声を掛け思いや願いに寄り添う。実現に向けて励ます。一緒に○○する。
- ②思いや願い、活動のよさを認める。価値付ける。他の子に広げる。
- ③活動が停滞した時に適切に方向付ける。単に教えるよりも気付かせる。
- ④記録を積み重ねることで、自分の活動や関わりのよさに気付かせる。

\*カードや付箋など。様々な方法は後述。

- ⑤評価する（伸びた力、学びの具体、足りない力、次の活動に向けて）。

- ⑥次の学びを予想する。次の学びと子どもの思考、思いや願いをつなぐ。

一人一人の考え方や活動、学びは違います（傾向の把握や分類は可能です）。

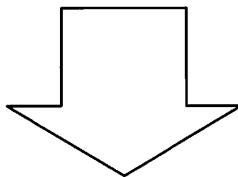
ですから、教師も日常から確実に記録、評価ができるようにしましょう。最初は1授業時間で数人しか関わりをもてないこともあります。そのような場合、子どもがかいたカードなどから、気付きやよさを見取ります。また、活動を振り返り、自分自身のよさに気付かせることも大切です。



## 生活科で育てたい力とは？

評価の観点は次の通りです。

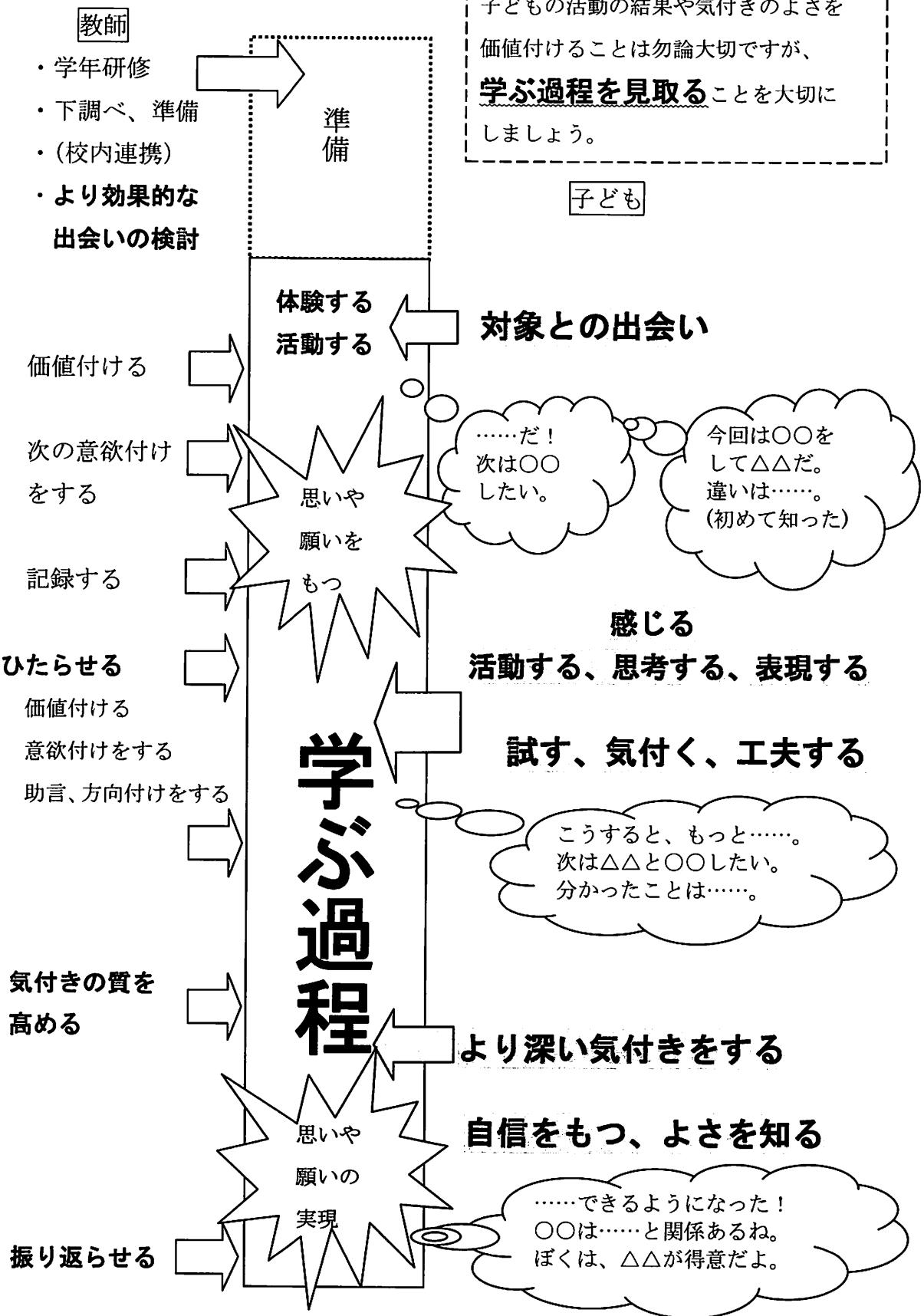
- ◎具体的な活動や体験から、対象と自分との関わりに興味・関心をもつ
- ◎自分自身や自分の生活について理解を深める
- ◎生活上必要な習慣や技能を身に付ける

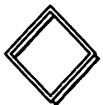


そして、このような子どもを育てましょう。

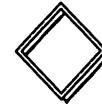
- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・進んで行う</li><li>・自分の思いや願いを表現する</li><li>・活動にひたる</li><li>・感じる</li><li>・比べたり関連付けたりする</li><li>・自分の生活に生かす</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・対象に直接働きかける</li><li>・試す、工夫する</li><li>・考える、予想する</li><li>・気付く、分かる</li><li>・自分のよさや成長を知る</li><li>・よりよい生活を考える、創る</li></ul> |
|---|---|

## 「**学ぶ過程**」の展開例





次



# 学校探検

■生活科の探検活動で大切にしたいこと ..... P8

■スタートカリキュラム ..... P12

- ・生活科の学びを生かす展開例
- ・育ちを生かし、自立へ

## ■充実した

探検活動にするために ..... P14

- ・学校全体の協力体制が必要
- ・身近なところから  
　　徐々に視野を広げる
- ・探検する時の人数は  
　　子どもの思いに合わせて
- ・教師はさりげなく見守る

■マップあれこれ

..... P16

- ・マップは子どもの発達に合わせて
- ・階ごとの情報を掲示  
　　→日常的に情報を追加
- ・写真を活用して  
　　子どもの目の付け所を明らかに

■学校探検の具体例①

..... P18

- ・生き生きと活動できる構成に
- ・ちよこちよこ探検でウォッチング
- ・見付けた情報は学級で共有

■学校探検の具体例②

..... P20

- ・主体的な活動につながる単元構成を
- ・分かったことをクイズで伝える

■みんなのルール

..... P22

- ・歩くマナーも身に付ける
- ・職員室への入室マナーも身に付ける
- ・入ってよい部屋といけない部屋がある

■カードあれこれ

..... P24

- ・カードを単純化・パターン化
- ・先生とカードを完成させる

# 地域探検

■ 地域探検のポイント	..... P26	・ 探検で何を学ばせたいか ・ 事前の依頼は直接行こう
■ 人とのふれあい		
地域のキラリさん	..... P28	・ 第一印象が大事。 まずは話してみましょう ・ 焦りは禁物。 その人をよく知ること
■ 探検の具体例①	..... P30	・ 共通体験の場をつくる ・ 探検名人3か条 →探検博士3か条
■ もっと仲良く、 もっと好きに	..... P32	・ 視覚情報を深く探るために 人と関わる ・ 2回目の探検の目的を はっきりさせよう
■ 探検の具体例②	..... P34	・ 事前の準備を入念にしましょう ・ くりかえし関わりましょう
■ 探検後の表現活動①		
～マップ～	..... P36	・ 校区マップに位置付けましょう ・ 発表する相手を考え 伝えることを決めましょう
■ 探検後の表現活動②		
～伝え方の工夫～	..... P38	・ 発表内容の選定が肝 ・ 発表内容は 当日までのお・た・の・し・み ・ 他の教科等と関連させて 発表方法を工夫する ・ 友達から評価をもらう（他者評価）
■ カードあれこれ	..... P40	

# 生活科の探検活動で大切にしたいこと



## 子どものドキドキ、ワクワク感を大切に！

生活科の探検活動を取り入れた学習（単元）は、1年生で学校探検や公園探検を行い、2年生で町（地域）探検を行います。どれも繰り返し教室から出て活動を行います。

子どもが、「今日は探検がある日だ！（楽しみだな）」と期待していることが何より大切です。教師にとっては、「いつも見ている場所」かもしれません、子どもにとっては、「何かひみつがあるかもしれない場所」であり、「（考えもしなかった）すごい発見が待っている場所」、と思っているのです。

子どもの思いや願いを大切にして、満足感や達成感を味わえるような活動を教師は工夫し、「どこで」「何に目を向け」「どんな活動をするか」計画を立てます。



## 教師の関わりを大切に！

子どもは、この学習で、「探検に意欲・関心をもつ」→「計画を立てる」→「探検する」→「振り返る（表現する）」→「共有して伝える（発表する）」→「次の探検の意欲をもつ」という動きをします。探検活動を取り入れた学習（単元）に学ぶ意味をもたせるように、意図的な教師の関わりが必要です。

例えば、学校や公園、店や施設に行く場面では、「見たことのないものやひみつを発見した！」という意欲を引き出すことが何よりも大切です。教師の関わりとしては、視点をもたせたり、子どもの気付きを価値付けたりします。

また、「（学校や公園にいる先生やお兄さんお姉さん、または店や施設、地域の人に）聞くと、よく分かった。ひみつが増えた。もっと、聞いてみたくなった（調べてみたくなった）。」と気付かせることも必要です。探検してきたことを交流、発表する場では、「誰に」「どうやって」「分かりやすく」伝えるか、ポイントを具体的に示します。

特に「見えているのに、よく観ていないものや人」に気付かせます。



## 人との出会いの場をつくる！

人の出会いは、子どもは様々な良い学びをします。まず、知らなかつたことを新たに知ることができ、他にも知りたい、もっと知りたいと興味がどんどんわいてきます。そして、知ることの楽しさを実感します。次に、出会った人に親しみをもつたり仲良くなったりします。子どもにとって友達が増えたというような喜びがありますし、世界が広がるように感じます。そして、また会いたくなります。これが大切なことです。「学校や地域にいる人は優しい。」と知り、「自分も○○さんのように優しくなりたい。」と思うことや「していただいたことに、お返し（挨拶、言葉や会話、手紙、再訪問）をしよう。」と、人として大切な行いに気付いていくのです。

そのためには、身に付けたいスキルがあります。挨拶の仕方や話し掛け方、聞き取り（インタビュー）の仕方です。これらは学年や教科を問わず必要なスキルですし、学校外でも今後生活していくうえで大切な行いです。

ですから、「どのように」「誰と」出会う場をつくるかが大切なポイントです。



## 交流の場と価値付けで、表現力を高める！

探検後の表現活動も大切です。活動を振り返り、体験したことや得た情報を整理し、様々な手法で表すことは、学びの連続・発展という視点からも大切だからです。そのためには、よく観たい、かきたくてたまらないという思いを生む「観る・かく」視点の設定やカードの工夫、子どもの心をくすぐるような言葉掛けなど、様々な関わりが重要と考えられます。

また、かいたり記録したりしたことを交流する場も大切にします。友達の発見を共感的に受け止める雰囲気をつくること、「よかつたこと」や「こうしたら、もっとよくなること」を相互評価することも、子どもが気付きの質を高めるために効果的です。

教師の言葉やカードに書くコメントは、子どもが気付いていなかった活動のよさを価値付けたり、次の意欲を引き出したりするので、特に重要です。

子どもの表現力を高めるには、場の設定と教師の働きかけがポイントです。



## 教師の関わりを想定し、子どもの気付きを捉える！

探検に行く場所や活動、そこで出会う人を見通して、期待する子どもの姿や気付きと、それを引き出す教師の関わりを想定しておくと、効果的な価値付けが可能となります。

(1年) 探検 (2年)	主な教師の関わり
学校 意欲 地域 公園 付け 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○探検に行く場所の魅力を伝える（写真など、効果的な提示の工夫）。</li> </ul>
探検① 記録 表現① 計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小グループをつくる（配慮児童を考えて構成）。</li> <li>○一人一人の思いや願いが探検の中で実現できるよう、グループに関わり調整する。</li> <li>○探検の視点を明らかにする。</li> </ul>
探検② 記録 表現② 思いや願いの実現 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一緒に探検し、活動の様子を見取る（安全配慮）。</li> <li>○探検中や探検後の発見や気付きを見取る。</li> <li>○カードや付箋を用いて、感想だけでなくよさや気付きなどを引き出したり、価値付けたりする。</li> <li>○「もの」から「人」へ着目するよう関わる。</li> <li>○一緒に探検し、活動の様子を見取る（安全配慮）。</li> <li>○表現①からの「疑問点」「人とのふれあい」「新発見」「気付き」を見取る。</li> <li>○表現の工夫（伝える人のことを意識したり、伝える方法や落としてはならない内容を決めたり）ができるよう関わる。</li> <li>○場所や施設への関わり方や魅力、人の行いや優しさに気付かせ、今後の生活に活かすよう促す。</li> </ul>

- 授業の初めや終わりに、カードや付箋からよいものを紹介する。
- 活動や気付きのよさを全体に伝えたり、交流を促したりする。
- 書き終えた子ども同士で、カードを見せ合う。
- 子どもの注意を引く場所にカードやマップを掲示する。



## 探検を成功させるため、あれこれ！

探検が成功するためのポイントです。

探検までの事前準備	
教師が学習のねらいや目標をはっきりもつ	○「理科室や音楽室で発見してほしい」「集会所には優しいお年寄りが集まっている。子どもと関わらせたい」など、どんな学習を進めると子どもが育つかを考える。
探検する場所や施設の下見をし、見学先には学習のねらいや内容を伝え、打診する	○地域探検では、相手と「希望する日時」、「児童数(予想できるグループ数)」、「探検時間や内容」を明らかにし、打合せをする。
探検場所や見学先を決定する	○「子どもの思いや願いから出た見学先」と「教師が意図的に学ばせたい見学先」がある。「探検可能か(探検ルートの安全面、受け入れ可能か)」*「実施回数と時間帯が適しているか」を考慮し、決定する。
グループのメンバーを決める	○4~6人が活動しやすい。 ○配慮が必要な子の学びを支えるにはどうするか考える。その保護者と事前に相談をする。
校内の調整	○教頭先生などに日程や内容を伝える。
保護者の支援 (が可能か)	○交通ルール遵守やマナー違反と一緒に見る。
事前指導をする	○「5分前行動」など時間を意識させる。 ○「信号が赤点滅した」時の行動など、確認する。 ○集合ができる。 ○転んで擦過傷の時は、水で洗う。 *これらは生活科の時間以外でも指導できる。
探検当日	
当日の持ち物	学校帽子、探検用バッグ、鉛筆数本、水筒、時計、行動しやすい服装と靴、ハンカチ(デジタルカメラ)

# スタートカリキュラム

スタートカリキュラムは、小学校へ入学した子どもが、これまでの生活における育ち（幼児期の教育及び家庭）を基礎にして、その力を発揮しながら新しい学校生活に適切に移行していくためのカリキュラムです。

カリキュラムは目的に基づいて学校ごとに定めることができます。

安心	○学校生活に慣れていく。出会いのうれしさや学校の楽しさを感じる。 ○小1プロブレムを予防する。
成長	○子どもが自分らしさを發揮し、学びと育ちが確かなものとなる。 ○幼児教育→小学校教育の連続性・一貫性をつくる。
自立	○「学習上の自立」「生活上の自立」「精神的な自立」が養われる。 ○主体的に学ぶ子を育む。

上記はスタートカリキュラムの視点です。そして、生活科を中心として、他教科等を合科的・関連的に扱い、単元を構成します。例えば、「国語・音楽・学級活動」で「読み聞かせ」や「手遊び歌やみんなで歌う」、「仲間づくりゲーム」をする時間を作ります。カリキュラム・マネジメントの視点から検討することが大切です。

ここが  
ポイント

## 生活科の学びを生かす展開例

学校を「探検」したことを生かすカリキュラムを作ることができます。例えば、「生活・国語・学級活動」として、子どもが探検中に給食室の様子を見ます。調理員さんに対し絵や文字で思いをかかせてから、給食時間の指導で正しい給食の食べ方を学ぶ時間を作ると、学びが連続していきます。

入学した子どもは、座学を連続させないようにし、体を動かしたり場所を移動したりする学習を間に挟むようにして、意欲や集中を持続できるようにします。

学校探検では、教室で学習する上級生の姿を見たり、上級生のきれいな歌声を聞いたりすることで憧れます。また、職員室などを探検する時は、挨拶の仕方や話し方を学べます。

ここが  
ポイント

## 育ちを生かし、自立へ

幼稚園の時から話したり、聞いたりする経験が豊富な子どももいると思います。話したり、聞いたりする活動を取り入れて、こうした子の育ちを生かしましょう。

勿論、あまり経験のない子も多くいることが考えられます。その場合、教師と一緒に、子ども同士で挨拶や会話をするようにすることで、自信がもてるよう関わります。

**Active**

抵抗なく活動するために、学校探検に行く前に教室で挨拶や会話を練習を取り入れましょう。「お名前を教えてください?」「好きなことは何ですか?」など、この時期に相応しい簡単な質問を通して会話を試みることができます。楽しみながら話す・聞く力を付けていきます。

また、上級生と遊ぶ(6年生が1年生の世話をする)異学年交流をしたり、2年生が1年生と学校探検をしたりする学校もあるでしょう。いつまでも上級生の案内だけでは、自主性の向上は期待できません。自分で学校探検に行きたい場所や目的を選べると自立への一歩となります。

**気付き!**

ここでいう「気付き」は教科の学習につなげることができる探検中の子どもの気付きを紹介します。

- ものを見付けたり、不思議だと感じたりする子ども
  - カードに絵や文字で表現する。国語や図工の学習へとつなげる。
- 見付けたもの(理科室の器具や音楽室の楽器など)の数や種類に着目した子ども
  - 数えたり、仲間分けしたりする活動をする。算数へとつなげる。
- 学校探検で先生や上級生とふれ合う子ども
  - 握手したり会話(聞き取り)したりする学校探検をすることで話し方や聞き方の練習をする。国語の学習へつなげる。

# 充実した探検活動にするために

## 1年生の場合…

学校探検をする時は、学校の時間の中で活動を行うわけですから、学校全体の動きの調整が必要です。たくさんの方の協力なしには、充実した活動は成り立ちません。

ここが  
ポイント

### 学校全体の協力体制が必要！

活動内容によっては、高学年が特別教室で学習している場面を見せるのが良いこともあります。担任外の先生にさりげなく通ってもらったり、話しかけてもらったり、仕事をしてもらったりすることが良いこともあります。忘れてはいけないことは、「〇月〇日〇時間目に学校探検をやります。部屋を出入りしますから貸してください！」と一方的に伝えるのではなく、「学校事情の許す限り、最大限可能な範囲で貸していただく」という気持ちです。

#### 【打ち合わせの内容例】

##### 1年生の 学年打ち合わせ

- ・目的
  - ・大まかな単元の流れ
  - ・探検する場所
  - ・順番
  - ・日時
  - ・学級ごとで行うか  
学年合同で行うか
  - ・グルーピングの仕方
  - ・ルール
- など

##### 2年生と

- ・単元の目的を伝えた上で2年生の案内方法の確認
  - ・日時の相談・ペアの組み方・回る順番・ルール
- など

##### 他学年と

- ・日時・探検の目的・特別教室の使用状況確認
  - ・授業中に校内を歩き回ることを周知・ルール
- など

##### 担任外と

- ・目的・日時・入室可能教室の確認・活動場所
  - ・時間に合わせて出会わせたい場合はその可否
- など

ここが  
ポイント

### 身近なところから徐々に視野を広げる

学校で生活している以上、最終的にはたくさんの教室の場所や名前、そこに居る先生の名前など1年生でも覚えなければいけないことは数多くあります。全部覚えるには順序を考えなければなりません。

入学当初は、玄関と教室まで。その他には、トイレ、水飲み場、保健室、職員室。休み時間過ごすようになると、図書室や体育館などを知る時期になります。他に身近なのは、音楽室、給食室などがあります。

また、学校の設計上、「教室や職員室がある2階は知っているけど、他の階も行ってみよう。」「高学年のいる教室も見てみよう。」などと視野を自然に広げる機会を作つてあげるのも一つの方法です。

単元構成によつては、2年生に案内してもらうのをきっかけに、「気になつた部屋を自分たちでも探検してみよう」と活動を広げていくことも考えられます。いずれにしても、学校事情を押さえ、子どもの実態を踏まえた上で、子どもの気持ちに寄り添つた活動内容にしていく必要があります。1年生なりの「はてな」を生む探検を目指したいものです。

ここが  
ポイント

### 探検する時の人数は子どもの思いに合わせて

1年生はまだ学校のことがよく分かっていないので、最初は教師主導、もしくは2年生主導でみんなで列になって歩きます。学習中なので、秩序を守るためにも、まだ全員一斉に歩くのがよいです。特に入学式の時のように、しばらくは二人ペアで手をつなぎ、前の人を追い越さないで静かに歩いて回る。この秩序をもつた最初の歩き方がその後の探検活動に良い影響を与えます。

活動が進んでくると、自分なりに「見たい教室」「調べたい教室」が出てきます。その意思が出てくると、グルーピングが必要になります。グループでまとめるとする時は4～6人くらいのグループで回ることがあります。ただ、秩序を守つて活動するには、同じ思いをもつた二人か三人の少人数がベストです。人数が少ない方が小さい声で相談できますし、意見が分かれることも少ないです。

ここが  
ポイント

### 教師はさりげなく見守る

学級単位で行う場合は、クラスの気になる児童を中心に必ず見て回ります。また、担任外の教職員の助けも可能な限り借りて、さりげなくお仕事をしてもらいながら子どもたちに出会わせることも良いでしょう。

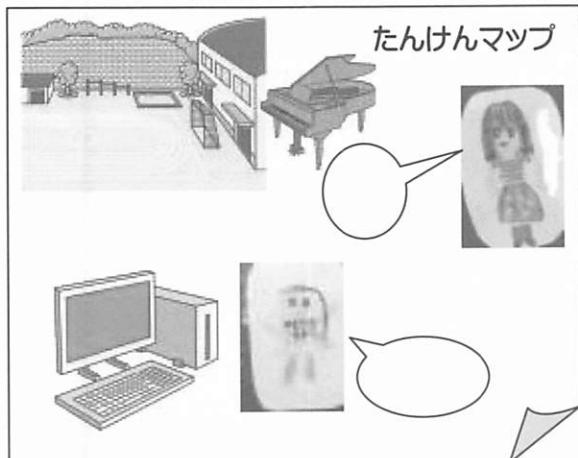
学年単位で行う場合は、フロアごとに担当を決めて見て回るのがよいかもしれません。教師は可能な範囲で写真を撮り、活動の様子を記録します。そうすることで、自分が見ていない場で、どのグループがどこで、どんな活動をしていたか具体的に知ることができますし、評価にも生かせます。

# マップあれこれ

ここが  
ポイント

マップは子どもの発達に合わせて

1年生の場合、まだ校内地図を見て位置を把握するのは難しい場合もあります。最初のうちは、音楽室のピアノやパソコン室のパソコンなど、目印になりそうなものを絵や写真で表示して、その近くに自分のミニチュアを付けて吹き出しにコメントを書くようなものでも構いません。

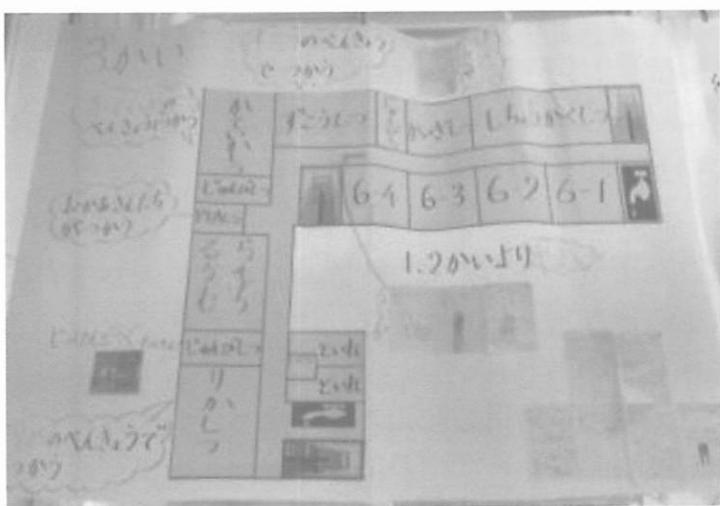


※吹き出しの代わりに付箋でも良いでしょう

## Active

「何を見て」「どう感じたか」を表出することが、まずは大事にしたいことです。そうすると、最初から「校内地図」を用意する必要はありません。

段階的に、いわゆる「地図」に子どもの発見を位置付けていくのが良いでしょう。



探検の具体例でも取り上げましたが、マップは階ごとに用意し、探検の度に情報を付け加えていきましょう。発見したことが増えていくことを、マップにも見えるようにしていくと、子どもの意欲にもつながります。

ここが  
ポイント

## 階ごとの情報を掲示→日常的に情報を追加



部屋ごとの発見を書いたカードは、子どもたちが互いに見合える状況にしておくのが良いと探検の具体例で取り上げましたが、ここで掲示の方法について紹介します。左の写真は、板状のダンボールを貼り合わせて三角柱の状態にしたものです。ワークスペースや廊下などに常に置いておき、好きな時に情報を付け加えられるようにしていきます。必要ない時は、折りたたんで収納することもできますので、この方式はなかなか便利です。子どもも楽しんで情報を追加するようになりますよ。

ここが  
ポイント

## 写真を活用して子どもの目の付け所を明らかに！



マップと合わせて活用すると効果がありそうのが「教室の写真」です。教室の4方向を写真に撮り、つなぎ合わせていきます。そこに、気付いたことをミニチュアを使って表現していきます。上の写真では、「目の付け所」にシールを貼ってみました。言葉で表現するだけではなく、自分がどこに目を向けているのか、友達の目の付け所はどこかを知ることを明らかにする活動を通して、その後に言葉や絵で表現させることも効果的です。

# 学校探検の具体例①

入学して間もない子どもは、学校の様々なことに興味津々です。対象と繰り返し関わることができるよう、単元や環境を構成することによって、施設の位置や特徴、役割だけでなく、そこにいる人の存在や働きなどに気付き、これから的生活に期待をもてるようになってほしいものです。

ここが  
ポイント

## 生き生きと活動できる構成に

学校の「もの」「ひと」との距離を近付けていくために、段階的に三つに分けて構成しました。

2年生との探検で、2年生のおすすめの場所を教えてもらいますが、一度見ただけではどこに何があるのか分からなくなり、改めて確認する必要性が出てくることが考えられます。「もっと見てみたい」という意欲を大切にし、自分たちだけでの探検につなげていきます。



### 【探検の段階】

- ① 先生と探検:探検のルールを知る
- ② 2年生と探検:上級生との関わり
- ③ 自分たちで探検(各階):「もの」「ひと」に関わる→技への気付き

ここが  
ポイント

## ちょこちょこ探検でウォッキング！

探検していくうちに、「この部屋は何をするところかな。」「これは何に使うんだろう」といった疑問が生まれます。そこで、「自分たちだけでは分からぬ。」と、特別教室を上級生が使用している時に、少しお邪魔することにしました。活動の様子をよく見たり、話を聞いたりすることで、

「家庭科室ってミシンで縫い物をするところなんだ。」「早くやってみたいな。」と、実感することができます。



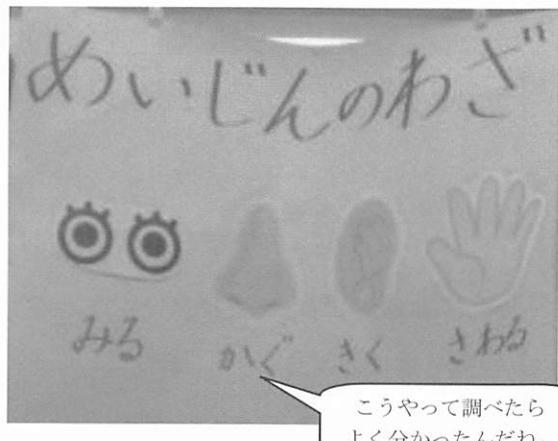
ここが  
ポイント

## 見付けた情報は学級で共有！

校舎の白地図を階ごとに用意し、探検する度に子どもの発見したことを位置付けていきます。地図、写真、子どものカードなどを合わせてマップとして掲示することで、位置を認識するのが苦手な1年生でも、「ここにはこんなものがあったな。」と、情報を関連付けて考えることができます。

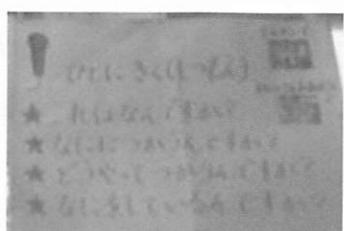


また、部屋ごとの発見を小さなカードに書きため、写真と共に掲示します。日常的に互いの情報を共有できるようにすることで、「休み時間にも探してみよう。」「○○君と同じことを見付けたんだ！」と、たくさんのことを見付けた自分に気付いたり、友達の気付きにも目を向けたりすることにつながります。



目や耳、手触りなどの感覚を使って見付けてきた子どもの気付きから、「わざ」として価値付け、どんどん獲得し、試していくように励ましていきます。

「わざを使ったら詳しく分かったよ。」「一人でも使えるんだよ！」と、繰り返すことで、自信をもって活動することができます。



# 学校探検の具体例②

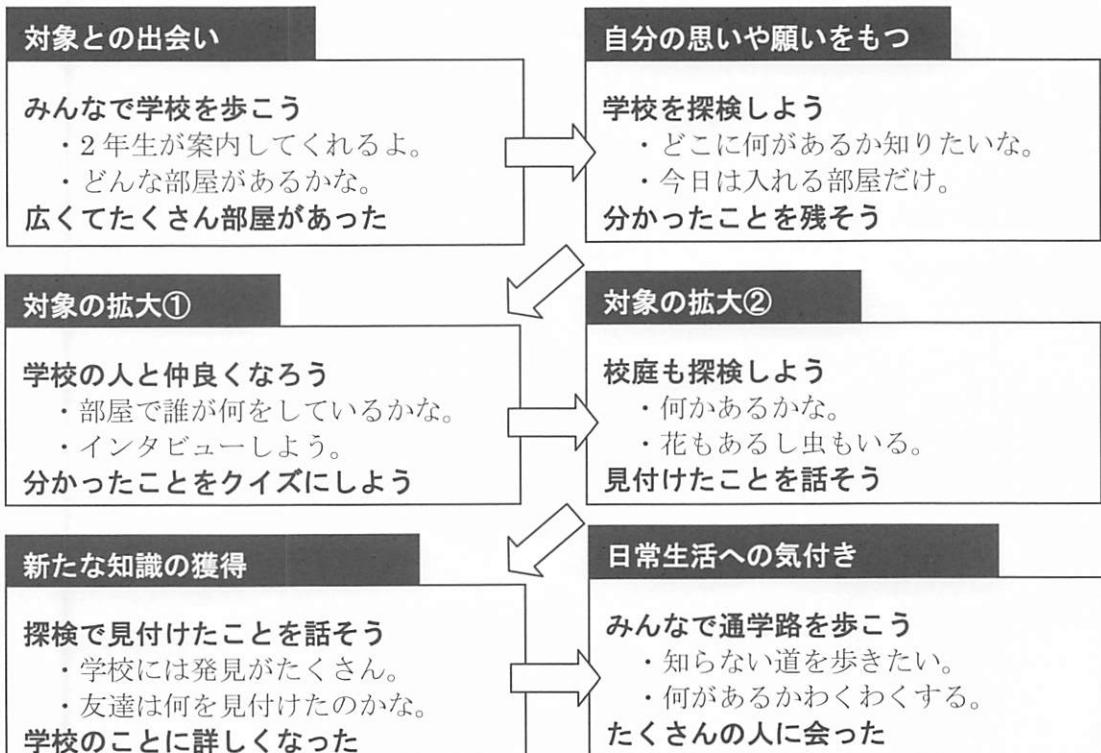
学校内の部屋の場所や名前に注目して調べた後は、更に部屋の中に入り、もの調べをしたり、そこに居る人との関わりが生まれたりするようにしていくことが良いでしょう。そして、活動を通して、校内の部屋に更に詳しくなり、その中で分かったことを友達に知らせる活動へつなげていきます。

ここが  
ポイント

## 主体的な活動につながる単元構成を！

学校探検の単元では、「学校のことに少しずつ詳しくなること」「校内の人との関わりを増やすこと」、更には「自分の思いを少しでもうまく表現すること」の三つの力を特に重点的に身に付けさせたいところです。そのため、学校探検という活動を通して、教職員と関わったり、クイズをしたりするという名目で活動意欲を促進したり、表現活動を促したりして、1年生なりに主体的に活動できるように学習活動を構成することが良いでしょう。

### 【単元例】



ここが  
ポイント

## 分かったことをクイズで伝える

ここで、学校探検の具体的な展開例を紹介します。

## 【学習展開例】

分かったことをみんなに知らせよう  
～クイズ大会で～

部屋の中にどんなものがあるのか、どんな人がいるのかを調べてみよう

部屋の中にどんな  
ものがあるのか調  
べたいよ。

部屋にいる人との  
とも質問して調べ  
たいよ。

みんながびっくり  
するようなことを  
見付けたいよ。

## 活動①～調べ活動～

<ものを見付ける>

- ・理科室には実験で使うも  
のがたくさんあるよ。
- ・家庭科室には鍋もあった  
し洗濯機もあったよ。
- ・IT ルームには音の出るす  
ごい黒板があったよ。

<人とのかかわり>

- ・校長室には校長先生がいて、PCと  
電話を使ってお仕事をしていたよ。
- ・給食室の窓から見ると、白い服を着  
た調理員さんが忙しそうに給食を作  
っていたよ。栄養士さんが優しく教  
えてくれたよ。

いろいろなことが分かったね。分かったことをクイズにして友達に伝えよう

## 活動②～クイズ作り～

○○室のことをクイズ  
にしよう。△△のこと  
もいいな。

○○室にあったす  
ごい△△を問題に  
しよう。

○○室にいた△△先  
生の問題を作ろうか  
な。

良いクイズができそうだね。みんなびっくりするだろうね

調べ活動の時に教師は、子どもの発言やつぶやきに耳を傾けながら、「ものとの関  
わり」「人との関わり」が意識できるように教室で引き出したり、板書したりします。

1年生の子どもが楽しみながら表現できるよう、クイズ作りなどで分かった  
ことをまとめると良いでしょう。

# みんなのルール

ここが  
ポイント

## 歩くマナーも身に付ける

生活に必要な習慣を身に付けることも生活科のねらいの一つです。「廊下歩行指導」というと、学級活動で行うことのように思われますが、1年生の生活科の探検学習で身に付けることが可能です。子どもたちが本当に学びたいと思い、「静かに歩かないと他の学年や先生たちに迷惑をかけてしまう。」と思った時、自然に静かに歩けるのではないかでしょうか。

すると、学級活動で、「静かに歩きましょう。」と指導されても自分ごとになつていないうちより、自分ごとになっている生活科の学びの方がはるかに納得して身に付けていくことができるのです。そして、生活科で身に付けたマナーを、校外学習に出かけても生かしていくことができます。まさに一石二鳥といえます。

### Active

指導の具体で言うと、「走らない」「大きい声で話をしない」が絶対です。これを例えれば「ぼくら〇〇探偵団」や「忍者」と設定し、だから「調べている姿を気付かれないようにそっと歩こう。」「ひつそり移動しよう」などとさりげなくマナーに結び付けるように仕組むと効果大です。時に、「探偵手帳」や「忍者バッヂ」などを身に付けると、更になりきり度が高まります。



ここが  
ポイント

## 職員室への入室マナーも身に付ける

1年生が職員室に入るのは、大変緊張します。ですが、毎日お手紙を取りに行ったり、落とし物を尋ねに行ったり、保健の先生を探しに行ったりするなど、何かと入室する機会が巡ってきます。そのような時に困らないよう早めに入室マナーを身に付ける必要があります。

これも、学級活動で指導できることではあります、生活科と関連させて学校探検活動を通して身に付けることが可能です。

全員で職員室の中を見せてもらう時も、少人数で入る時も同じです。ドアをノックして、「失礼します。」「〇〇先生は、いらっしゃいますか。」とドアの所で立ち止まって一言話し、「どうぞ。」と言われたら入ります。挨拶の声は大きく、探検中の声は小さくします。出る時は「失礼しました。」と言います。この当たり前のようなやりとりを生活科で1年生から身に付けることができれば、この先、堂々と入室することができるようになります。

また、このルールは職員室だけに適用するものではありません。校長室、保健室、事務室、用務員室など部屋は全て同じです。

学校探検で調査活動に協力してもらった時、最後に、「ありがとうございました」も必要になります。

ここが  
ポイント

### 入ってよい部屋といけない部屋がある！

学校探検をする時は、その目的によって見る部屋が少し違ってきます。部屋という部屋をオープンにし、そこから何かを感じ取らせます。人が働いている部屋を見せます。上級生が勉強している姿を見せます。

このように様々な目的があります。その中でも、今日は「ここはダメ。」、いつも「ここはダメ。」という部屋が存在します。その度に伝えることも大変なので、そのような時は部屋の表示に「信号」を付けます。

#### Active

「青」は入室OK、「赤」は入室禁止、「黄」は入室可能だが条件付きといった具合です。それがあれば子どもたちは「この前は赤だったけど今日は青だから、入ってみよう」と「青」を確認して入室します。

また、活動目的に応じて教師側で自然に入室制限をすることが便利です。



「わくわく」「どきどき」がなければ探検は楽しい活動になりません。教師側が環境を整え、子どもが主体的に活動できるように準備をしていきたいところです。

# カードあれこれ

活動をしたまま終わるのではなく、そこで子どもが見付けたことや気付いたことを表現し、それを教師が価値付けることによって気付きを自覚することができます。

入学して間もない子どもたちは就学前の学習経験の差があり、書くことを苦手としている子も多いです。そのため、様々なカードの形が考えられます。

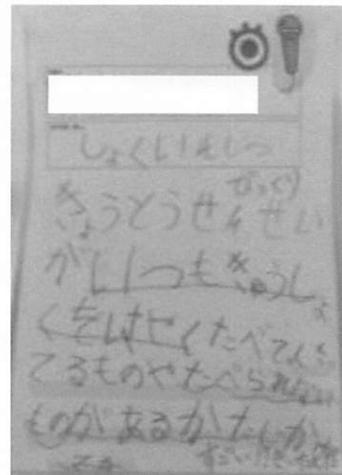
ここが  
ポイント

## カードを単純化・パターン化

A4サイズの画用紙を四等分した大きさで、白紙のものにすることで、絵や言葉など好きな方法で表現することができます。

毎回同じ形式にし、子どもにとって安心して取り組めるものにすることで、「もっと書きたいな。」という意欲を生んだり、書けたことへの自信につながったりします。また、カードに目や耳、手触りなどの感覚を表したマークを入れる方法もあります。

どの感覚を使ったのかを見るようにすることで、方法を意識しながら探検をするようになっていきます。部屋ごとや階ごとに意図をもってカードの色分けをすることも一つの方法です。



ここが  
ポイント

## 先生とカードを完成させる

カードに子どもの気付きが全て表れるわけではありません。子どもと対話し、見付けてきたことや感じたことを教師が価値付け、補助的に情報を付け足すことがとても大切です。

教師が積極的に関わり、子どもの思いに寄り添っていきたいものです。

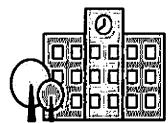


# がっこうだいすき

1ねん

くみ

なまえ



1. じぶんはここをしらべているよ！

**1かい** • **2かい** • **3かい**

2. じぶんは、このへやを しらべるよ！

へやの なまえ	へやの なかの ようす

3. がっこうたんけんの やくそくは？

**まもれた** • **まもれなかつた**

4. がっこうに くわしく

**なつた** • **まだなつていない**

# 地域探検のポイント

みなさんの学校の校区には、どんな店や施設がありますか。子どもは毎日の登下校で様々なものを見ながら歩いていますが、実は意識していないことが多いのです。

まずは、教師が校区を探索していろいろなものを発見しましょう。「おや?」「なぜ?」と思えることを見付けながら、子どもたちとの町探検の計画を立てていきましょう。

ここが  
ポイント

探検で何を学ばせたいか!?

校外で学習する町探検は、子どもにとって、とても魅力的な学習になります。しかし、はっきりとした目的がないと学びにつながりません。探検に行った場所に繰り返し行くことができ、そこで働く人や地域の人との関わりがもてると良いでしょう。そして、地域の人に親しみや愛着がわくと更によいですね。

地域が大好きになるために、子どものお気に入りの場所へ探検に行くことができるよう事前準備を進めていきましょう。

ここが  
ポイント

事前の依頼は直接行こう!

毎年継続して探検を行っている場所だとしても、依頼は直接会いにいくことがよいでしょう。探検の意図や子どもにどのように関わってほしいのかが相手によく伝わりますし、何よりも教師の印象や熱意が伝わります。

また、学校全体で取り組んでいることを伝えることも大切ですから、学校長名で依頼文書を作成して、お届けしましょう。

## あるある NG!

魅力的な見学先には、たくさんの子どもたちに探検してほしい！と思うのが当然ですが、チョット待った！

○見学先の場所の広さは子どもの人数に合っていますか？

○探検に行く時間帯に、その見学先にはどのくらいの人がいますか？

○見学先によっては忙しい時間となり、子どもには対応できない場合がありますか？

事前に確認しておきましょう！

## Active

主体的な活動にするために、「子どもだけの探検」ができるようにしましょう。教師が子どもの近くに寄り添ってばかりでは、子ども自身が探検中に表現する機会を失ったり、自ら考えることで育つ芽を摘み取ったりします。そうかと言って、すべて子ども任せにするのも安全面で心配です。

そこで、保護者の方に協力を求めましょう。その場所に行くまでの危険な箇所を見守っていただくことで安心して探検できます。また、探検している様子をビデオや写真で撮影してもらうことで、探検活動後の振り返りに活用できます。さらに、子どもの様子を見ていて、よさやがんばりなどを保護者の方に聞いておき、後から教室で伝えることで自己有用感をもつ子どもに育っていきます。

## 気付き！

気付きの質を高めるために写真や校区のマップを活用しましょう。学級に大きなマップを作成し、少しずつ探検で得た情報を書き込んだり、写真を貼ったりします。そうすることで、「今度は、違うお店で聞いてみたいな。」「この場所には、どんな人がいるのかな。」「違う人でも同じことをお話ししていたよ。」など、地域に対する関心が高まり、探検に対する意欲が増していきます。

# 人ととのふれあい 地域のキラリさん

子どもが探検に出かけ、様々な場所を調べる過程で、そこで生活している人や働いている人など、様々な人と出会うことにつながります。人と適切に接することを経験できる機会となりますし、地域に親しみや愛着をもつきっかけにもなります。

みなさんも校区を探検している中で、素敵なお友達になる方にお会いせんでしたか？子どもたちも地域の人と接するためには勇気が必要です。まずは教師自身が勇気を出して、地域の方に話し掛けてみましょう。

ここが  
ポイント

**第一印象が大事。まずは話してみましょう！**

どんな人と会うにも、まずは第一印象が大切です。これから学習の中でお世話になるかもしれないと思うと、どのようにコンタクトを取るかも大事になってきます。初めは相手も私たちのことが分かりませんから、名刺を渡したり、「○○小学校の者です」と切り出したりすると話がしやすくなります。

今はPCで名刺が簡単に作成できます。見学先から連絡をいただくこともありますので、ぜひ持参しましょう。

学習に関係することはもちろん、登下校時の子どもの様子や地域の情報を得る絶好の機会となります。

ここが  
ポイント

**焦りは禁物。その人をよく知ること！**

ビジネスの世界でも、いきなり仕事の話をするとうまく進まない時があります。まずは、ご挨拶をしっかりと行います。次に訪問の目的を伝えます。そして依頼を始めるというステップを大切にします。何度も会うことで、お互いの名前と顔を覚え、気持ちを通わすことができます。これは子どもも一緒です。

「お店で働く人」から、「○○商店の△△さん」と名前が言えるくらい、子どもにも仲良くなつてほしいですね。これが地域への愛着につながる第一歩です。

## あるある NG!

実際に探検で人と接するのは子どもです。子どもが関わる方の中には、普段子どもと接する機会が少ない方もいます。中には苦手としている方もいますので、少し心配があると感じた場合には、そこに教師自らが引率することも必要です。その方の話を子どもに噛み砕いて伝えたり、子どものインタビューの意図をその場で伝えたりするなど、橋渡しをする役割も考えられます。

## Active

インタビューは子どもにとって楽しみな活動です。そして、「しっかり聞いてこよう！」と張り切って臨む活動でもあります。しかし、聞きたいことを十分尋ねられなかったり、メモすることに精いっぱいになつたりすると、せっかくのインタビューの機会も不十分な結果となってしまいます。

事前にどのようなことを聞きたいのかグループで相談したり、質問する順番を考えたりさせてみましょう。また、質問の答えを予想しておくことで、更に聞いてみたいことが出てくるかもしれません。「聞いてみたい」「話したい」という思いがあれば、相手もたくさんのこと教えてくれますし、子どもも満足感をもち記憶にとどめることができます。

### 気付き！

インタビューして聞いたことは、探検後、すぐにカードに記録させましょう。その日は覚えていても、数日すれば忘れてしまうことがあります。違う場所へ探検に行った子にも後で正確に伝えることが大事です。

また、探検で得た情報は、クラスや学年全体で共有できるような工夫があるとよいですね。

# 探検の具体例①

より良い探検にしようと、ただ回数を増やしても、活動の質は高まりません。そればかりか、子どもは店内にあるものを見付けてくる活動に終始し、探検に対する思いや願いが徐々にしほんでいってしまいます。

「探検ごとに関わる対象が広がる」「対象への関わり方が深まる」ことが重要です。ここでは、実践をもとに具体例を紹介していきます。

ここが  
ポイント

## 共通体験の場をつくる

初めて探検に出かける際に、「良いものを見付けて来るんだよ。」と子どもに投げ掛けても、子どもにとっての「良いもの」は様々でしょう。

そこで、クラス全員で共通の場所で体験する方法がおすすめです。先生が、「お店の人聞いてごらん。」「〇〇では、とっておきの話を聞けたね。」など、人と関わっている子どもの様子を価値付けたり、人と関わることの大切さを教えたりしましょう。みんなで共通体験し、人の関わりが生まれると、その後の探検も充実すること間違いなしです。

ここが  
ポイント

## 探検名人3か条→探検博士3か条

### 探検名人の3か条

- ・【おすすめ】を見付けるべし
- ・【おすすめ】を発表すべし
- ・【おすすめ】に詳しくなるべし

子どもの目は、比較的「もの」には行きやすく、「ひと」や「こと」へ目が向くには時間要します。

そこで、探検名人3か条を提示し、「おすすめ」という言葉から、訪問先の特徴に目が向くようにします。「ただそこにあったもの」から「珍しいもの」「そこらしいもの」へと「もの」を見る力を養っていくのです。

### 探検博士の3か条

- ・一緒にやってみるべし
- ・人と仲良くすべし
- ・みんなに発表すべし

そして次に、探検博士の3か条も提示し、「一緒にやる」「仲良くなる」ことを投げ掛けます。「もの」と十分関わった後に提示することで、子どもはスムーズに「ひと」や「こと」に関わり始めます。

## あるある NG!

### ○計画性をもった単元作りを

→いきなり「あの、全員で伺いたいんですけど～。」と言っても、受け入れ先の店や施設に人数制限があり、断られる場合がほとんどです。どのような単元にして進めるのか、子どものどんな力を高めたいのか、しっかりと計画を立てます。共通体験の場を設ける際には、予め見学先に確認をしておきましょう。

### ○人数制限があるため「行きたい場所に行けなかった」

→2学期に単元を進める場合には、1学期末に「子どもの行きたいお店調査」をしておくと良いでしょう。長期休みを利用して見学先の訪問や交渉も可能です。また、おおよその人数を把握できていれば、詳しい条件を相手側と相談することができます。条件が良ければ、見学先などのバックヤードを見せてもらえることがあるかもしれません。

## Active

### ○行きたい見学先に行けるように

生活科は子どもの思いや願いに沿った体験活動を大切にしています。ですから、子どもの行きたい場所をできる限り行くことができるようにしてあげましょう。「1回行った場所はダメだよ！」「違う場所に行きましょう！」と教師が決めてしまっては、子どもにとって受け身の学習になり、「どうせ言っても、できないのでは……。」と感じてしまいます。

1回目の探検を終えて、子どもがもつ印象はそれぞれ違うと思います。「また2回目も同じ場所に行きたい。」「2回目は違う場所に行きたい。」と、それぞれの子どもの思いや願いに合わせ、探検の場をつくっていきましょう。大切なのは、一人一人の探検の目的が明らかになっていることです。活動が進むにつれて気付きの質を高まることを期待したいものです。

# もっと仲良く、もっと好きに！

1回目と同じ場所？それとも違う場所？学校や地域の実態を考慮すると探検の進め方は様々です。同じ場所へ行くのであれば、「内容のレベルアップ」、違う場所へ行くのであれば、「方法のレベルアップ」を考えてみましょう。

ここが  
ポイント

視覚情報を深く探るために、人とかかわる！

子どもは探検で、目に入ってくるもの、つまり視覚情報を捉えます。「これは何？」「どんなことに使うの？」といった疑問は、2回目の探検で解決させましょう。その際、「聞いてみないと分からないよね。」と、その場所にいる人とのかかわりにつなげるような教師の問い合わせが必要になります。「聞いてみたら、優しく教えてくれた。」という経験は貴重ですし、「何でも知っている〇〇さんってすごいね！」といった人への尊敬や愛着にもつながります。

ここが  
ポイント

2回目の探検の目的をはっきりさせよう！

1回目の探検を終えた後、「もう1回行きたい？」と聞いたら、「行きたい」と答えるでしょう。そこで、「次は、どんなことを調べたいの？」と問い合わせましょう。すると、「もっと、〇〇が見たい。」や「△△さんと話したい。」、「何か秘密を教えてほしい。」と答えるはずです。

何のために探検に行くのか。その目的をもたせることで、探検の質が変わってきます。子どもの視線やインタビューの言葉にも熱意が溢れてくるでしょう。

## あるある NG!

複数回、探検に行くことができるならば、探検の内容をレベルアップさせることも必要です。同じ目的で探検を繰り返しても楽しいだけの探検に終わり、子どもの育ちは見られません。

1回目は「もの」「こと」を調べて、2回目は「人」に着目するなど、発展させていくことが大切です。店で働く人であれば、「手」「目線」「言葉」に着目させる工夫もできます。

## Active

「人」「もの」「こと」で分けて、発見したことをカードや付箋にまとめる際に、色を分ける方法もあります。色を分けることによって、「赤色が少ないから、次の探検では『もの』について調べて来たいな。」と新しい目的をもちやすくなります。

## 気付き！

探検を繰り返していくうちに、目の付け所が変わってきます。着目するポイントを絞ったり、普段は見えていない部分を探ってみたりするなど、今後の生活科の時間だけではなく、どの学習でも物事を幅広く見ることができるようになってきます。

そのためには、子どもの気付きを価値付けることが大切です。どんな発見が良かったのか、良い気付きを見取り、それを子どもに返すことで、気付きの質は更に高まっていきます。

# 探検の具体例②

地域探検では身近な店や施設について子どもたちが調べる中で、たくさんの発見があり、「もう一度行ってみたい。」「もっと詳しく調べたい。」という思いや願いが深まっていきます。それぞれが探検してきたことを振り返り全体で交流する中で、教師が適切に関わり豊かな気付きにつなげていくことが、次の体験を価値あるものにしていきます。

この学習サイクルを繰り返すことで、着実に子どもは力が付いていきます。



ここが  
ポイント

事前の準備を入念にしましょう！

校外でのグループ活動になるので、事前に準備しておくことがたくさんあります。前年度までの実践があると、「今年もよろしくお願いします。」で終わる打ち合せもありますが、場所の選定、見学先の都合の確認や事前交渉、安全の確保など事前の準備をしておかなければならることは多々あります。保護者にボランティアで付き添いをお願いするときも、早めに依頼しておきます。



ここが  
ポイント

くりかえし 関わりましょう！



視点をはっきりさせて、より深く対象に関わらせることは大事です。活動の後は、一人一人の学びを基に友達との関わりの中で気付きを共有し、みんなの発見につなげていきます。振り返りをする中で、教師が価値付けし、子どもたちをより深い学びに導きます。より深い思いや願い、視点をもったうえで次へとつなげることが、深い学びになります。



お寺の中を見学させてもらいました。  
「となりの幼稚園に、ぼく行っていたよ。」「わあ、このカネ、大きい！」



床屋さんが実際にやってくださいました。  
「ここでこうやって、あわをつくって……。」「ぼく、まだ、ひげがないよ。」

## Active

### ○単元の出会いの場の工夫～誰かに頼まれると盛り上がる

子どもたちと単元の出会いを工夫してみましょう。

子どもたちに「町探検に行って、町のことをあれこれ調べましょう」と投げ掛けるのも良いですが、「○○先生に1年生に教えるために町のことを教えてって頼まれたよ。」や「校長先生に調べてみてと頼まれたよ。」などの投げ掛けをすると、子どもたちの意欲が高まります。

## 気付き！

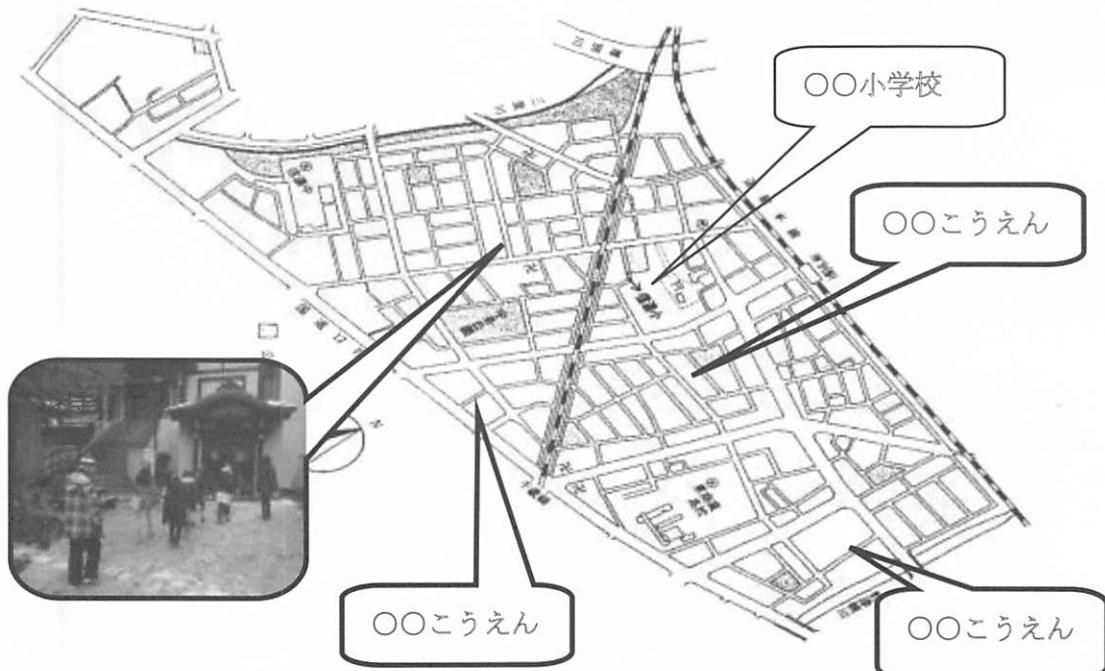
### ○友達からの褒め言葉を生かす（子ども同士の相互評価）

「もっと知りたいな。」「もっと、みんなに知らせたいな。」という気持ちを継続させるためには、教師の価値付けや友達からの肯定的な評価が不可欠です。でも、子どもが他の子を褒めるボキャブラリーをもっていないことも多いですね。「えーっ！ すごい！」「びっくり！ 知らなかった！」「はじめて聞いた！」など子どもたちが気付いたことを肯定的に受け止める言葉を決め、マークやシールに表してみましょう。「えー！」「びっくり！」と友達の発見を褒めていく活動を広げていくことで、互いに高め合う仲間づくりや、より深い気付きにつながるはずです。

# 探検後の表現活動①～マップ～

ここが  
ポイント

校区マップに位置付けましょう！



探検で調べてきたことは、マップに位置付けていくと、みんなで協力して作り上げるため協同意識が高まります。2年生にはまだ、地図は難しいのですが、1年生で経験している身近な「公園」を起点にして、「〇〇公園の方」と、おおよその場所をイメージできると良いでしょう。子どもたちが発見したこと、分かったことをマップに表していきます。生活科の時間だけではなく、家族との買い物や通学の時などの経験も活かします。

マップにすることで店や公共施設が集まっている地域、友達が住んでいるところが多い地域に気付くことも期待できます。取材してきた写真を貼ると、もっと楽しい活動になります。



これらは、3年生の社会科の学習にもつながる大事な気付きです。掲示板や板段ボール（屏風のように貼り合わせると自立します）に貼って、日常的に見ることができるようにすると、子どもたちの関心も高まります。

ここが  
ポイント

### 発表する相手を考え、伝えることを決めましょう！

「気付いたこと」や「発見したこと」をまとめて発表の準備をするときに、発表する相手を考え、「誰に」発表するのかを意識することが大切なポイントです。

クラスのグループごとに互いの発表を見せ合う場合、「他のグループの人が知らない、とっておきのひみつ」を伝える、参観日で保護者に発表する場合、「おうちの人にも知らせたい頑張り」を用意する、1年生に伝える場合は、「2年生が調べてきたことを教えてあげよう」と目的をもつなど、伝える相手



に応じていろいろな投げ掛けがあります。

相手に伝わるように上手に表現するためには相手のことを考えなければなりません。子どもたちの表現の工夫が変わってきますので、相手は予め提示しておきましょう。学習の見通しをもつことができます。

### あるある NG!

#### ○「発表会」で終わってしまっては……

学び合いや感想交流もなく、次から次へと「それぞれ自分の発表をして終わり」では、せっかくの探検活動がもったいないです。

「振り返り」や「良かったこと」を発表後に交流することが大事です。学び合うためには気付きを共有し、新たな学びにつながるような価値付けを教師が率先して行いましょう。

#### ○現在の学年から、次年度の子どもたちへ

見学をさせてくれた店や施設は学校の大切な「教育資源」です。終わっても次の年度につながるように、お礼状や子どもからの手紙を送るなどしましょう。連絡先や今年度培ったノウハウは、学校の財産として次の学年に引き継げるようにします。

# 探検後の表現活動②～伝え方の工夫～

探検から帰校して教師も子どもも「ふう。」と一安心。これでは、「体験あって学びなし」の学習となってしまいます。大切なのは一息入れた、その後の活動なのです。

探検で得た気付きを自覚させたり、友達に発信し気付きを共有化したりする表現活動を行いましょう。体験活動と言語活動を組み合わせることが生活科ではポイントになります。

ここが  
ポイント

## 発表内容の選定が肝！

子どもは、探検の中で多くの「価値ある発見」をしてきます。しかし、発表する際に、せっかくの発見を選ばずに発表してしまったという経験はありませんか。

それを防ぐためにも、子どもと対話しながら（時には赤線記入やシールで教えたり、言葉を引き出したりして）発表する内容を決めるようにしましょう。教師の関わりによって、子どもの発見に含まれる価値を自覚できるようにし、発表内容を選ぶことが必要なのです。

ここが  
ポイント

## 発表内容は当日までのお・た・の・し・み！

発表内容が決まり、「さあ、練習！」と張り切って教室で大きな声で練習する子どもたち。でもこれでは、本番を前にして内容が他のグループにすべて聞こえています。これでは、発表を聞く場でワクワクしなくなってしまいます。

ここでポイントになるのが、練習する環境を整えてあげることです。グループの数だけ練習する場を確保してあげましょう。そうすることで、声の大きさや動きなどで周りを気にすることなく練習に集中することができます。

さらに、発表内容を当日まで秘密にすることで、それぞれが俄然やる気を出します。このワクワク感が低学年の子どもたちには魅力的なのです。

ここが  
ポイント

## 他の教科等と関連させて発表方法を工夫する！

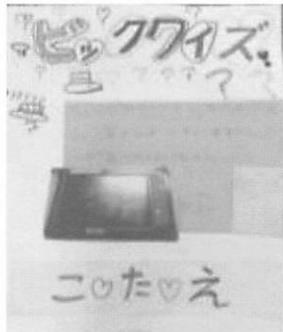
2年生の子どもは様々な教科の学習を通して、いくつかの発表方法を学んできていることでしょう。自分が決めた発表内容がより効果的に伝わるには、どの方法にすればよいかを教師と一緒に考えていきましょう。探検で土産をいただいた子は実物提示、店員さんの技を見せるため動作化(劇化)、クイズ形式やポスター作り、ペーパーサートなど、多様な方法から適切に選択します。

こうすることで、聞き手も集中して聞くことができるので、話し手はより満足感を得ることができます。発表方法を工夫することのメリットは多いでしょう。

〈ポスターセッション〉



〈クイズ形式〉



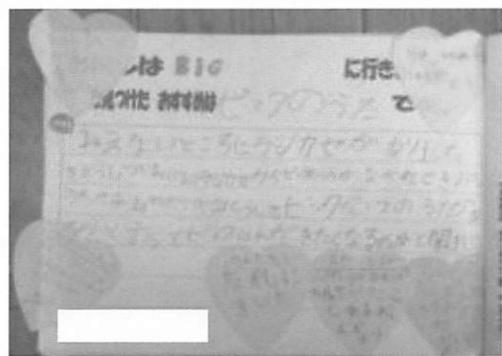
〈動作化〉

ここが  
ポイント

## 友達から評価をもらう（他者評価）

探検で見付けた「おすすめ」を発表する際、聞き合うだけでなく、評価する場を設定（写真では付箋に書いています）します。発表する子どもの中では、無自覚だった探検での気付きが、他者に評価されることで、自覚していきます。

このとき、教師も一緒にコメント入りの付箋を貼ると更に効果的です。「次も新たな発見を！」「○○さんみたいなものを見付けるぞ！」と、次の活動への意欲付けになったり、「自分の発見は、すごかったんだ！」という自己有用感を高めることにもつながったりします。

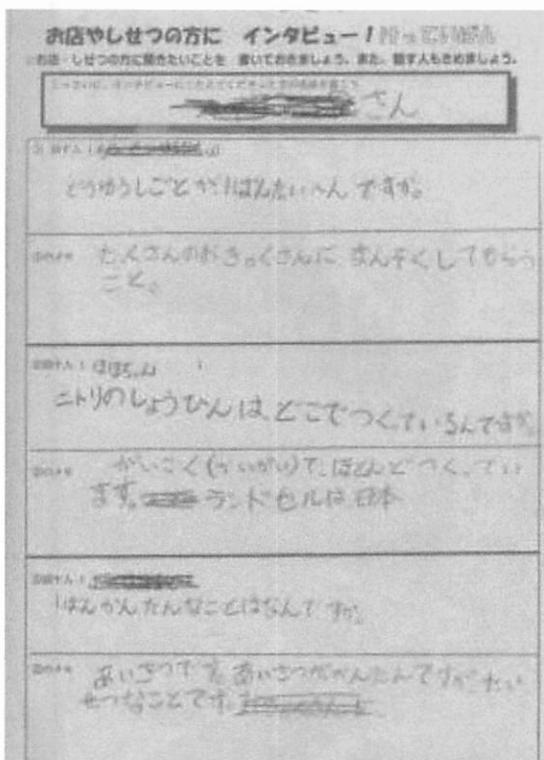
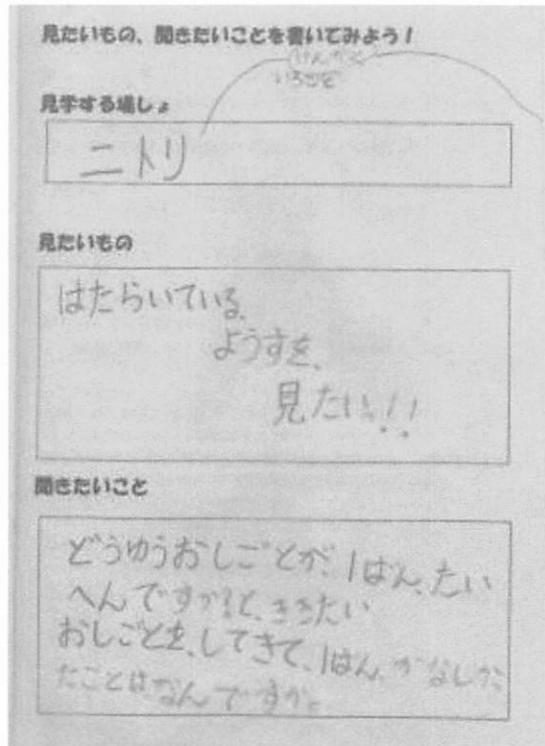


# カートあれこれ

## 【インタビュー準備カード】→

見学する場所が決まって、見たいものや聞きたいことを考えるためのカードです。

「働いている様子」「働いている人の気持ち」など、取材することをはっきりさせてから取材します。

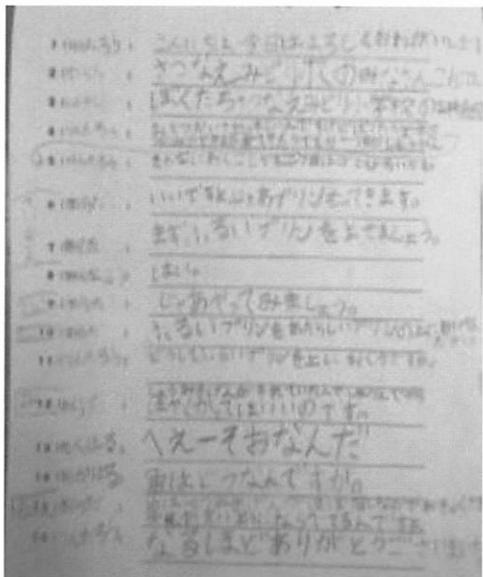


←【インタビューカード】

何人かで店や施設を訪問するので、インタビューする内容が重ならないように、予め分担しておくとよいでしょう。

質問のセリフも考えておきます。正しい言葉遣いで、相手に話せるように書いておくと子どもも安心ですね。

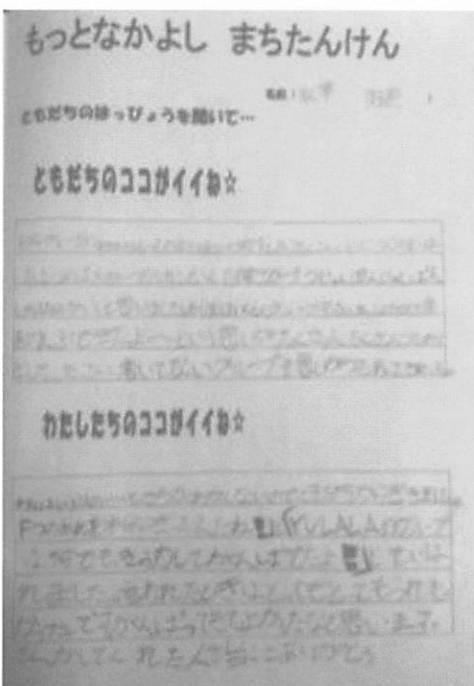
## 【発表準備カード】



発表の準備をする際にもカードを用います。体験してきたことを文字に表すことで、必要な情報を落とさず伝えられるようになります。練習の度に発表内容が二転三転してしまわないようになります。

また、伝えたい情報は何かを教師が引き出して価値付けたり、子どもが表したことについて問い合わせたりするかかわりが大切になります。

### 【発表後のカード】



発表を終えて、単に感想を書くのではなく、友達や自分たちのグループのよかつた点を書き表します。「私たち」という視点にすることによって、自分だけでなくグループのメンバーのよさにも気付くことができます。

また、書いたことを交流することによって、「イイね☆」を伝え合います。友達からの褒め言葉で自分のよさに気付き、自己肯定感を高めるよさにもつながります。



## ～ 探 検 ～

監 修 西 宏 (札幌市立篠路小学校)

編 集 丹 羽 洋 彦 (北海道教育大学附属札幌小学校)

執筆者 照 井 史 絵 (札幌市立北九条小学校)

荒 木 さとる (札幌市立平和通小学校)

蝦 名 悠 太 (札幌市立札苗緑小学校)

福 井 貴 大 (札幌市立東苗穂小学校)

松 岡 由 佳 (札幌市立新川小学校)

発行日 平成29年9月

発行者 北海道生活科・総合的な学習教育連盟

日本生活科・総合的学習教育学会 北海道支部

北海道生活科・総合的な学習教育連盟ホームページ

「北の大地・発」 <http://douseiren.main.jp/>



Active ~探検~



北海道生活科・総合的な学習教育連盟

日本生活科・総合的学習教育学会 北海道支部